

2025年
3月1日
第7号

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



Newspaper in Education
教育に新聞を

いのちを守る新聞、神戸から

全国大会、パネル討議に池上彰さんら

「第30回 NIE 全国大会神戸大会」(7月31日=神戸ポートピアホテル、8月1日=甲南大学岡本キャンパス)の初日の概要が固まった。開会式では世界的指揮者の佐渡裕さん(兵庫県立芸術文化センター芸術監督)とスーパーキッズ・オーケストラが演奏、パネル討議は「情報で、いのちを守る」をテーマに、ジャーナリストの池上彰さん、古田大輔さんらが登壇する。

パネル討議は、池上さんがコーディネーターを、古田さん▽兵庫県立大大学院減災復興政策研究科教授・阪本真由美さん▽西宮市立浜脇中学校主幹教諭・^{よしたか}渋谷仁崇さん▽神戸新聞社論説副委員長の長沼隆之さんの4人がパネリストを務める。交流サイト(SNS)が内外の選挙や児童生徒の生活に大きな影響を与える中、情報を主体的に読み解くメディア

リテラシーをどう身に付けるか、阪神・淡路大震災から30年の節目に災害にどう備えるか。NIE活動でどのように実践するか、意見を交わす。

スーパーキッズは、2003年から活動開始。全国の小学生から高校生までの弦楽器奏者をオーディションで選抜し、佐渡さんの指揮・指導により多様な活動を展開している。県立芸術文化センターでのコンサートのほか、東北や熊本の被災地で心の復興を願う演奏会を行うなど、全国から注目を集める。

このほか、芥川賞作家の小川洋子さん(西宮市)の記念講演もある。大会は日本新聞協会が主催し、神戸新聞社と兵庫県 NIE 推進協議会が主管する。大会の詳細、参加申し込み受け付けは4月に発表予定。

(神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 網 麻子)



NIE の実践例が報告された発表会=神戸市中央区東川崎町1

全国大会を前に NIE 実践発表会

兵庫県内の小中高3校による「2024年度兵庫県 NIE 実践発表会」が2月6日、神戸新聞本社(神戸市中央区)であり、教員ら約50人が参加した。

兵庫県 NIE 推進協議会の主催。発表した3校は甲南小学校(神戸市東灘区)、夜間中学の姫路市立あかつき中学校、県立神戸甲北高校(神戸市北区)。いずれも7月31~8月1日、神戸市内で開かれる「第30回 NIE 全国大会神戸大会」2日目に、他の二十数校とともに公開授業や実践発表を行う。この日の発表は、神戸大会のリハーサルにも似た雰囲気があった。

あかつき中の伊達実教諭は、ネパールやパキスタンなど5カ国にルーツがある16~91歳の生徒が在籍する中で、生活に身近なテーマの新聞記事を活用していると紹介した。

県内の教育関係者や新聞各社の総局長、遠くは静岡県御前崎市の中学教員らが参加。会場は熱気に包まれ、神戸大会まで半年を切ったことを実感させた。

記者講演では、神戸新聞の若手記者が阪神・淡路大震災から30年を迎え、記憶と教訓を語り継ぐ大切さをテーマに講演した。

(神戸新聞社 NIE・NIB 推進部シニアアドバイザー 兵庫県 NIE 推進協議会事務局長 三好正文)



佐渡裕さん ©飯島隆



小川洋子さん



池上彰さん



古田大輔さん



阪本真由美さん



渋谷仁崇さん



長沼隆之さん

なおみ先生の NIE 教室



今年も卒業式の季節が近づいてきました。教員時代は、式場から退場する卒業生がクラス全員で「ありがとうございます」と学校に向かって一礼する姿に涙したものです。しかし、近年「先生大好き」と声をそろえて言うクラスがあり「あれ？」と違和感。いくら良い先生がそろっていても高校のクラス全員が「先生大好き」なわけないでしょ。学校は批判的思考(クリティカルシンキング)を十分教えられなかったのかと反省しました。

批判的思考とは、何事もうのみにせず、大

⑦ 先生大好き？

量の情報から正しい情報を選び、論理的、多角的に考える思考方法です。複雑なものを無理に単純化せず、複雑なまま理解します。社会や人間は複雑ですから「悪の組織が社会を動かしている」という陰謀論や、「この人の言う事は全て正しい」という分かりやすい言葉で集約することはできません。

学校で批判的思考を教える際は意見が対立している社会課題、例えば「移民問題」について、新聞と交流サイト(SNS)で情報を集めるのはいかがでしょう。移民が仕事を奪い、税金を使っているから、いなくなればいいと単純に考えるか、移民も税金を払っている、

いなくなれば労働力が足りなくなる、仕事がないのは他にも原因があると多角的に考えるかなどを話し合います。また、情報を見比べ、どの情報を信頼するかを考えます。このような学習を積み重ねると、誤情報による判断の誤りを回避できるようになるでしょう。

(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第4金曜に掲載。

よした・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内公立高校国語教諭、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

批判的思考、学校で養うには

2025年2月28日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました